

小中高 教師が共に語り、オピニオンをつくる

Teachers' cafe

第2回ワークショップ 開催

全国から小学校、中学校、高校の先生方が一堂に会し、子どもの成長や教育について語り合う Teachers' cafe の第2回ワークショップを、2014年2月に開きました。その模様をお伝えします。

◎全国から小中高27名の先生が参加

全国から19名の先生に参加いただいた第1回のワークショップの様子は、本誌2013年度vol.4でお伝えしました。第2回は参加人数を拡大。第1回に参加した先生に加え、20代～60代の幅広い年代の小中高の先生27人が全国から集まりました。

今回、議論をより深めるために自己紹介の後に行ったのが、第1回の内容の共有です。オピニオンの模造紙を掲示し、前回参加者によるポスターセッションを実施しました。更に、ベネッセ教育総合研究所の研究者が、子どもの学習意識調査の結果や、今後100年の世界・日本の動向を踏まえた社会環境の変化予測を報告。子どもが将来どんな社会を生きていくのか、その時に求められる力は何かを思い描くための情報提供をしました。

◎「テストがなかったら」の前提で、教育の根本に迫る

議論の進め方は、今回もワールドカフェ形式を採用。まず、小中高の先生方が混合のグループをつくり、「テストや受験がなかったら、子どもに何を身に付けさせたいか」をテーマに語り合いました。グループを3回替えながら、地域も学校種も年齢も役職も違う人たちの思いを聞き、視野を広げていきました。「テストや受験がない」という前提には「そんなことを考えたこともなかった」という意見も聞かれましたが、「評価がなければ何を教えたいか」「社

会で生きるにはどんな力が必要なのか」という教育の根本へと議論が深まっていきました。

メインは、「オピニオンづくり」です。課題意識が近い先生同士でチームをつくり、「12年間で身に付けさせたい力を小中高でどのように教えるか？」をテーマに、議論をまとめました。オピニオンは、チームで用いる言葉は違っていました。しかし、「社会を生き抜くためにどんな力を付けたらいいか」「そのために教師がすべきことは何か」という課題は共通しており、先生方の根底に流れる熱い思いは学校種を超えて同じであることを確認できました。

また、後日、ワークショップを振り返るきっかけとして、チームの代表の先生にオピニオンの内容を整理したレポートの提出を依頼しました。

◎今後も全国の先生方をつなぐ場として

日々のご指導で忙しい先生方にとって、学校種や立場を超えて、教育について熱く語る機会は限られるようです。参加した先生方からは「貴重な経験が出来た」「新しい知見を得た」といった声を多くいただきました。また、第2回ではベネッセ社員も議論に参加することで、学校現場に理解を深めることが出来ました。

今後も Teachers' cafe のような機会を持ち、学校種や地域を超えて先生方をつなぐとともに、先生方と共に学校教育について考えていきたいと思います。

ワークショップの流れ

- 13:00 **オリエンテーション、自己紹介**
- 13:40 **前回の内容を共有**
第1回参加者によるポスターセッションを行い、内容を振り返り、共有した。
- 13:50 **視野を広げる**
ベネッセ教育総合研究所から、教育を取り巻く社会環境予測について情報を提供。
- 14:00 **問題意識を共有する**
4人1組となり、ワールドカフェ形式で「テストや受験がなかったら、子どもに何を身に付けさせたいか」をテーマに語り合う。1ラウンド15分で、グループを替えながら3ラウンド。
- 15:10 **オピニオンをつくる**
「12年間で何をどのように教えるか？」として、課題意識が近い者同士がチームをつくり、オピニオンをまとめる。
- 17:00 **発表**
9チームがそれぞれのオピニオンを発表
- 17:30 **まとめ**

第2回ワークショップ概要

- ◎目的 小学校、中学校、高校の先生方が率直に語り合い、「12年間で何をどのように教えるか？」を共に考え、現場教師発のオピニオンとしてウェブサイトなどを通じて発信すること
- ◎日時 2014年2月1日(土) 13:00～18:30
- ◎参加者 全国の先生方27名(小学校10名、中学校8名、高校・大学9名)
- ◎募集方法 『VIEW21』小学版・中学版・高校版の各読者モニターへのご案内など
- ◎会場 (株)ベネッセコーポレーション新宿オフィス
- ◎主催 ベネッセ教育総合研究所「Teachers' cafe」事務局
- ◎企画運営協力・当日ファシリテーター 与良昌浩氏(株式会社もくてき)、宮崎圭介氏(株式会社スコラ・コンサルト)

参加した先生方からのご意見・ご感想

・学校種が異なる先生と話すことによって、「学校教育すべき根本」が見えてくるのだと感じます。その根本を、行事、教科学習、総合的な学習の時間など、教育活動に沿って考えていきたい。

(小学校/北海道)

・他校種、他地域の先生と話し合いができ、共通するものがたくさんあると分かった。教育についてこんなに熱く語る機会はまだなかったので、とても有意義だった。

(小学校/秋田県)

・先生方との前向きな議論を通して、自分にはない、新しい知見を得ることが

出来た。「子どもへの教育」という点で、私たちは同志だと感じました。

(中学校/新潟県)

・前回とテーマの関連性が高かったので、内容を深化できた。もし、テーマが変わったとしても、学校種・地域の異なる教員が集まって熟議しオピニオンづくりをまたやりたい。

(中学校/愛媛県)

・今後の社会環境の変化の予測を聞き、50年後、現在の学校制度があるのかどうかと考えた。存続させることを考えるのではなく、変化を考えなければいけないと強く思った。他校種から得られた気

付きは多く、教科指導の改善だけでなく「学校」を考える上で、とても有意義だった。

(高校/宮城県)

・100年という長いスパンで日本を見るという視点が面白く、非常に興味を持った。一般企業や行政の方も参加できるようになると、具体的な話ができるだろう。今後に期待したい。

(高校/三重県)

・いろいろな意見を認め合いながら、時間内にまとめる作業は緊張感もあったが、とても達成感があった。

(高校/岡山県)

各チームのオピニオン

*全チームのオピニオンはウェブサイトをご参照ください

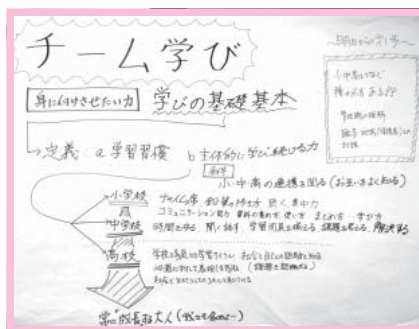
テーマ・12年間で身に付けさせたい力を、小中高でどう教える(育む)か

チーム「協力」



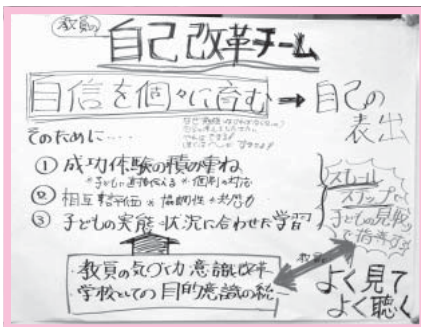
◎小中高が共通して取り組むべき指導の形として、「子どもが『夢中になれる時間と場所』をつくる」「安心して失敗できる環境(仲間と空間)をつくる」「『見通し』と『振り返り』を通して自己理解を深め、子どもの『メタ認知能力』を育む」ことの3点をあげました。これらを実現するためにも、児童・生徒参加型のアクティブラーニングへの転換が必要だと提言しています。

チーム「学び」



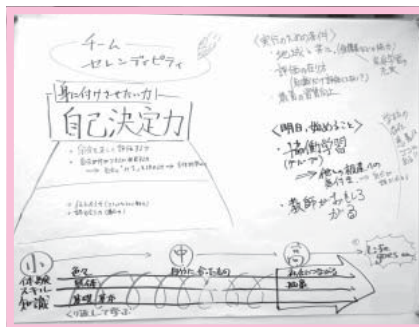
◎小中高12年間を通した学びのあり方そのものについて議論を深めました。特に、学校種を超えて育成すべき力を、「主体的に学び続ける力」と「学習習慣」に焦点化。いわゆる知識や技能の土台となる「不易」の観点を軸にして、小中高連携のあり方を改めて問い直しています。

チーム「教員の自己改革」



◎児童・生徒と、子どもに接する教師自身の教育観の改革に焦点を当てて議論を深めていきました。小学校・中学校・高校と、児童・生徒の発達段階がそれぞれ異なっても、見るべき指導のポイントには共通点も多いはず。「連携」の意味を、今一度問い直しました。

チーム「セレンディピティ」



◎たとえ、それが意図したものではなかったとしても、巡ってきたチャンスをしっかりつかみ取る力=セレンディピティ。不確実な世の中で、自分ならではの「みち」を選び、切り開いていくためには、自己決定力が大切だと考え、今後の社会の変化を見据えて議論を深めました。

今後の開催について

今後の開催については、ウェブサイトまたはメールマガジン等でご案内いたします。ベネッセ教育総合研究所の最新情報も配信しているメルマガ (<http://berd.benesse.jp/mailmagazine/>) にご登録いただくか、又はTwitter公式アカウント @benesse_tcafe をフォローしてください。

当日の様子や今回のオピニオンの全てがウェブサイトで詳しくご覧いただけます

Teachers' cafe ベネッセ で 検索

<http://berd.benesse.jp/tcafe/>